613-000878 Rev.A 080117

ギガビットイーサネット・スイッチ

CentreCOM® GS908XL ユーザーマニュアル

この度は、CentreCOM GS908XL をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。

本製品は、10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T ポートを 8 ポート装備したギガビットイーサネット・スイッチです。

本書をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。また、お読みになった後も大切に保管してください。

1 特長

- ○ 最大 8K の MAC アドレスを登録可能
- ○ Force MDI 機能（MDI/MDI-X の固定、自動切替が可能）
- ○ オートネゴシエーション機能（手動切替設定も可能）
- ○ コンフィグレーションスイッチにより、フローコントロール（Half Duplex 時＝バックプレッシャー機能、Full Duplex 時＝ IEEE 802.3x PAUSE）の設定が可能
- ○ コンフィグレーションスイッチにより、マルチキャストパケット透過機能の ON/OFF 設定が可能
- ○ ポートごとの通信状況が一目でわかる LED を装備
- ○ 9600Byte の Jumbo フレーム対応（1000Mbps）

オプション（別売）

- ○ 壁設置用ブラケット AT-BRKT-J23 により、壁面への設置が可能
- ○ マグネット Kit M により、スチール製の壁面への設置が可能
- ○ ラックマウントキット AT-RKMT-J08 により、19 インチラックマウントへの設置が可能
- ○ 電源ケーブル抜け防止金具 AT-RTNR-01 に対応

製品の最新情報について

本製品リリース後の最新情報を弊社のホームページにてお知らせします。

http://www.allied-telesis.co.jp/

2 アイコンの説明

アイコン	意 味	説 明
ヒント	ヒント	知っていると便利な情報、操作の手助けになる情報を示しています。
注意	注意	物的損害や使用者が傷害を負うことが想定される内容を示しています。
警告	警告	使用者が死亡または重傷を負うことが想定される内容を示しています。
参照	参照	関連する情報が書かれているところを示しています。

3 梱包内容

最初に梱包箱の中身を確認して、次のものが入っているかを確認してください。

- □ CentreCOM GS908XL 本体（1 台）
- □ 電源ケーブル※（1.8m、1 本）
- □ 製品保証書（1 枚）
- □ 製品仕様書（英文）（1 枚）
- □ シリアル番号シール（2 枚）
- □ ユーザーマニュアル（本書）

※ 同梱の電源ケーブルは AC100V 用です。AC100V でご使用の場合は、同梱の電源ケーブルをご使用ください。AC200V でご使用の場合は、設置業者にご相談ください。

※ 同梱の電源ケーブルは本製品専用です。 他の電気機器では使用できませんので、ご注意ください。

また、本製品を移送する場合は、工場出荷時と同じ梱包箱で再梱包されることが望まれます。再梱包のために、本装置が納められていた梱包箱、緩衝材などは捨てずに保管しておいてください。

安全のために

必ずお守りください

警告 下記の注意事項を守らないと火災・感電により、死亡や大けがの原因となります。

分解や改造をしない

本製品は、取扱説明書に記載のない分解や改造はしないでください。火災や感電、けがの原因となります。

分解禁止

雷のときはケーブル類・機器類にさわらない

感電の原因となります。

雷のときはさわらない

異物は入れない 水は禁物

火災や感電のおそれがあります。水や異物を入れないように注意してください。万一水や異物が入った場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。

異物厳禁

通風口はふさがない

内部に熱がこもり、火災の原因となります。

ふさがない

湿気やほこりの多いところ 油煙や湯気のあたる場所には置かない

火災や感電の原因となります。

設置場所注意

表示以外の電圧では使用しない

火災や感電の原因となります。
本製品は AC100-240V で動作します。
なお、本製品に付属の電源ケーブルは 100V 用ですのでご注意ください。

電圧注意

正しい電源ケーブル・コンセントを使用する

不適切な電源ケーブル・コンセントは火災や感電の原因となります。接地端子付きの 3 ピン電源ケーブルを使用し、接地端子付きの 3 ピン電源コンセントに接続してください。

3ピン
コンセント

コンセントや配線器具の定格を超える使い方はしない

たこ足配線などで定格を超えると発熱による火災の原因となります。

たこ足禁止

設置・移動のときは電源プラグを抜く

感電の原因となります。

プラグを
抜く

ケーブル類を傷つけない

特に電源ケーブルは火災や感電の原因となります。
ケーブル類やプラグの取扱上の注意
- ・加工しない、傷つけない。
- ・重いものを載せない。
- ・熱器具に近づけない、加熱しない。
- ・ケーブル類をコンセントなどから抜くときは、必ずプラグを持って抜く。

傷つけない

正しく設置する 縦置き注意

取扱説明書に従って、正しく設置してください。
不適切な設置により、放熱が妨げられると、発熱による火災の原因となります。

正しく設置

ご使用にあたってのお願い

次のような場所での使用や保管はしないでください

- ・直射日光のあたる場所
- ・暖房器具の近くなどの高温になる場所
- ・急激な温度変化のある場所（結露するような場所）
- ・湿気の多い場所や、水などの液体がかかる場所（仕様に定められた環境条件下でご使用ください）
- ・振動の激しい場所
- ・ほこりの多い場所や、ジュータンを敷いた場所（静電気障害の原因になります）
- ・腐食性ガスの発生する場所

静電気注意

本製品は、静電気に敏感な部品を使用しています。部品が静電破壊されるおそれがありますので、コネクターの接点部分、ポート、部品などに素手で触れないでください。

取り扱いはていねいに

落としたり、ぶつけたり、強いショックを与えたりしないでください。

お手入れについて

清掃するときは電源を切った状態で

誤動作の原因になります。

プラグを
抜く

機器は、乾いた柔らかい布で拭く

汚れがひどい場合は、柔らかい布に薄めた台所用洗剤（中性）をしみこませ、固く絞ったもので拭き、乾いた柔らかい布で仕上げてください。

ぬらすな　中性洗剤使用　固く絞る

お手入れには次のものは使わないでください

石油・シンナー・ベンジン・ワックス・熱湯・粉せっけん・みがき粉
（化学ぞうきんをご使用のときは、その注意書きに従ってください）

シンナー類
不可

4 各部の名称と機能

前面

背面

(10) 電源コネクター

(11) 10BASE-T/100BASE-TX /1000BASE-Tポート

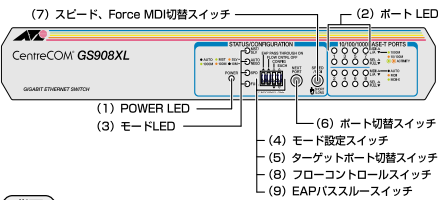
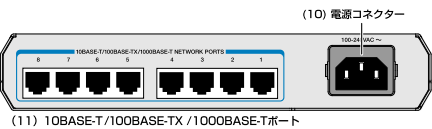



図 1 外観図

① POWER LED(緑)

電源が正しく供給されているときに点灯します。

② ポート LED

L/A LED(LINK/ACT LED)(緑 / 橙)
ポートと接続先の機器がリンクしたときに点灯します。1000Mbps で動作しているときに緑で点灯し、10Mbps/100Mbps で動作しているときに橙で点灯します。ポートがパケットを送受信しているときに点滅します。

MDI LED(緑 / 橙)
モード設定スイッチが「CONFIG」(上)側のときに、MDI/MDI-X を表示します。MDI 固定に設定すると橙で点灯し、MDI-X 固定に設定すると緑で点灯します。AUTO(自動切替)に設定すると消灯します。

FULL LED(緑)
Full Duplex で動作しているときに点灯します。

SEL LED(緑)
モード設定スイッチが「CONFIG」(上)側のときに、選択しているポートを表示します。ターゲットポート切替スイッチが「ALL」(下)側のときは、全てのポートが点滅します。

③ モード LED

モード設定スイッチが「CONFIG」(上)側のときに、設定するモード(MST/SLV、AUTO NEGO、SPD、FULL)を表示します。

MST/SLV LED(緑 / 橙)
1000Mbps の MASTER/SLAVE を表示します。MASTER 固定に設定すると緑で点灯し、SLAVE 固定に設定すると橙で点灯します。AUTO(自動切替)に設定すると消灯します。

AUTO NEGO LED(緑)
オートネゴシエーションに設定すると点灯します。

SPD LED(緑 / 橙)
ポートのスピードを表示します。1000Mbps に設定すると緑で点灯し、100Mbps に設定すると橙で点灯します。10Mbps に設定すると消灯します。

FULL LED(緑)
ポートの Full Duplex/Half Duplex を表示します。Full Duplex に設定すると緑で点灯し、Half Duplex に設定すると消灯します。

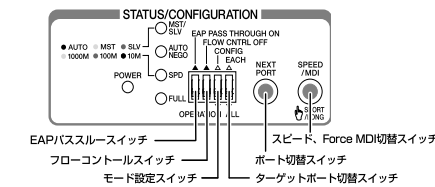



図2 コンフィグレーションスイッチ

④ モード設定スイッチ

通常動作モード(OPERATION)または設定モード(CONFIG)を切り替えるためのスイッチです。

出荷時設定は「通常動作モード(OPERATION)」(下)側です。

OPERATION(スイッチが下側の状態)
ポートのモード設定がされていて、そのモードで通信ができる状態です。

CONFIG(スイッチが上側の状態)
コンフィグレーションスイッチを使用して、ポートのモード、Force MDI の設定が可能な状態です。

・ポートのモード、Force MDI の設定中に通信を行うことができます。

・ポートの設定は、モード設定スイッチを「OPERATION」(下)側に戻すと有効になります。リンク状態のポートは、一度リンクが切断されます。

⑤ ターゲットポート切替スイッチ

設定をポートごとに行うか、全ポート同時に行うかを選択するためのスイッチです。

「ALL」(下)側に設定すると、全ポート同時にモード、Force MDI の設定が行えます。スイッチを「EACH」(上)側に設定すると、ポート切替スイッチで選択したポートの設定が行えます。

出荷時設定は「ALL」(下)側です。

⑥ ポート切替スイッチ

ポートを選択するためのスイッチです。ターゲットポート切替スイッチを「EACH」(上)側に設定し、ポート切替スイッチを押すごとに、選択したポートが次のポートへ移動します。最終ポート(ポート 8)まで移動すると、再びポート 1 へ戻ります。

⑦ スピード、Force MDI 切替スイッチ

ポートの設定を変更するためのスイッチです。

SPEED
出荷時設定は「AUTO NEGO」(オートネゴシエーション)に設定されています。スイッチを押すごとにモードが切り替わります。

モードは、MST/SLV、AUTO NEGO、SPD、FULL LED の点灯によって表示されます。

モード切替スイッチ	モード	LED表示			
		MST/SLV	AUTO NEGO	SPD	FULL
①	AUTO NEGOTIATION	○	◍	○	○
②	1000M FULL MASTER SLAVE AUTO	○	◍	◍	◍
③	1000M FULL MASTER	◍	◍	◍	◍
④	1000M FULL SLAVE	●	◍	◍	◍
⑤	100M FULL	○	○	●	◍
⑥	100M HALF	○	○	●	○
⑦	10M FULL	○	○	○	◍
⑧	10M HALF	○	○	○	○

SPEED /MDI SHORT /LONG

表 1 SPEED と LED 表示の切り替わり

ポートのスピードを 1000Mbps で固定した場合、1000Mbps のみの接続を許可するオートネゴシエーションとなります。

MDI
出荷時設定は AUTO(MDI/MDI-X 自動切替)に設定されています。MDI/MDI-X 固定または MDI/MDI-X 自動切替を変更するには、スイッチを 1 秒以上押してください。

モード切替スイッチ	Force MDI	LED表示
	AUTO NEGOTIATION、1000BASE-T 固定	
③	MDI/MDI-X自動切替	○
①	MDI-X	◍
②	MDI	●
	10BASE-T/100BASE-TX 固定	
②	MDI-X	◍
①	MDI	●

SPEED /MDI SHORT /LONG

表 2 Force MDI と LED 表示の切り替わり

ポートのスピードを 10Mbps、100Mbps で固定した場合、MDI/MDI-X 自動切替は無効となり、デフォルトで MDI-X が設定されます。

⑧ フローコントロールスイッチ

フローコントロール機能の ON/OFF を設定するためのスイッチです。この設定は全ポートに反映されます。

フローコントロールとは、スイッチ内部において受信側の転送速度が送信側の転送速度よりも遅い場合や、受信パケットが特定のポートに集中する場合に、バッファーオーバーフローによってパケットロスが生じることを未然に防ぐための機能です。

出荷時設定は「ON」(下)側です。

フローコントロール機能の設定は即時反映されます。リンク状態のポートは一度リンクが切断されます。

Full Duplex 時のフローコントロールは、本製品のモードが AUTO NEGO(オートネゴシエーション)で、かつ接続先の機器もフローコントロール (IEEE 802.3x PAUSE) をサポートしている場合に機能します。

⑨ EAP パススルースイッチ

EAP パススルースイッチでは、EAP パケットを含む下記の表 3 のマルチキャストパケットを透過する / しないの設定を切り替えることができます。

この設定は全ポートに反映されます。

EAP パススルースイッチを ON にすると、EAP パケットを含むマルチキャストパケットを転送し、OFF にすると、パケットは破棄されます。

EAP パススルースイッチを ON にすると、一例として 802.1X 認証を行っているレイヤー 2/3 スイッチと端末の間に本製品を設置することが可能になります。

出荷時設定は「OFF」(下)側です。

MAC アドレス	機能
01-80-C2-00-00-00	Bridge group address
01-80-C2-00-00-02	LACP
01-80-C2-00-00-03	802.1X EAP/EAPOL frame
01-80-C2-00-00-10	Bridge Management Group address
01-80-C2-00-00-20	GMRP address
01-80-C2-00-00-21	GVRP address

表3 EAP パススルースイッチで透過可能なパケット

マルチキャスト透過機能の設定は即時反映されます。リンク状態のポートのリンクは切断されません。

⑩ 電源コネクター

電源ケーブルを接続するためのコネクターです。同梱の電源ケーブルは AC100V 用です。AC200V でご使用の場合は、設置業者にご相談ください。

⑪ 10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T ポート

10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T の UTP ケーブルを接続するためのコネクターです。

5 設置

本製品の設置を始める前に、必ず**「安全のために」**をよくお読みください。

設置方法

本製品は、次の方法による設置ができます。

○ ゴム足による水平方向の設置

オプション（別売）を利用することにより、次の方法による設置ができます。

○ ラックマウントキット（AT-RKMT-J08）による 19 インチラックへの水平方向の設置

○ 壁設置ブラケット（AT-BRKT-J23）による壁面への設置

○ マグネット Kit M によるスチール製壁面への設置

・弊社指定以外の設置金具を使用した設置を行わないでください。また、本書に記載されていない方法による設置を行わないでください。不適切な方法による設置は、正常な放熱ができなくなり、火災、故障の原因となります。

・水平方向以外に設置した場合、「取り付け可能な方向」であっても、水平方向に設置した場合に比べほこりがたまりやすくなる可能性があります。定期的に製品の状態を確認し、異常がある場合には直ちに使用を止め、弊社サポートセンターにご連絡ください。

電源部が下向きになる方向で設置する場合には、必ず、オプション（別売）の電源ケーブル抜け防止金具（AT-RTNR-01）を使用し、電源ケーブルを固定してください。

設置準備

● 設置するときの注意

本製品を設置する場所を確認してください。設置場所については、次の点にご注意ください。

○ 電源ケーブルや各メディアのケーブルに無理な力が加わるような設置はさけてください。

○ テレビ、ラジオ、無線機などのそばに設置しないでください。

○ 傾いた場所や、不安定な場所に設置しないでください。

○ 底部を上にして設置しないでください。

○ 充分な換気ができるように、本製品の通気口をふさがないように設置してください。

○ 本体の上にものを置かないでください。

○ 直射日光のあたる場所、多湿な場所、ほこりの多い場所に設置しないでください。

○ 本製品は屋外ではご使用になれません。

○ コネクターの端子にはさわらないでください（静電気を帯びた手（体）でコネクターの端子に触れると、静電気の放電により故障の原因となります）。

設置

● 平らなところに設置する

本製品は、ゴム足を取り付けた状態で出荷されますので、そのままデスクの上などの平らなところに設置して使用できます。

オプション（別売）を利用した設置

● 19 インチラックへの水平方向の設置

本製品を 19 インチラックに取り付ける場合には、オプションの 19 インチラックマウントキット AT-RKMT-J08 をご使用ください。

・ラックマウントキットの使用方法は、AT-RKMT-J08 の取扱説明書をご参照ください。

本製品をオプションの 19 インチラックマウントキットを使用して 19 インチラックに取り付ける際は、適切なネジで確実に固定してください。固定が不十分な場合、落下などにより重大な事故が発生するおそれがあります。

● 壁面への設置

本製品の壁面への設置は、別売の壁設置ブラケット AT-BRKT-J23 を使用し、以下の点に注意して行ってください。

・壁設置ブラケットの使用方法は、AT-BRKT-J23 の取扱説明書をご参照ください。
・本製品は必ず下図の〇の方向に設置してください。

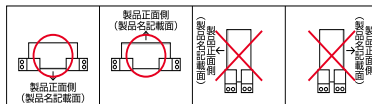



図 3　壁設置ブラケットを使用する場合の設置方向

・壁設置ブラケットに取り付け用ネジは同梱されていません。別途ご用意ください。

・壁設置ブラケットを使用する際は、本製品からゴム足を外してください。

・必ず〇の方向に設置してください。それ以外の方向に設置すると、正常な放熱ができなくなり、火災、故障の原因となります。

・壁設置ブラケットを使用して壁面に取り付ける際は、適切なネジで確実に固定してください。
固定が不十分な場合、落下などにより重大な事故が発生するおそれがあります。

● スチール製壁面への設置

本製品のスチール製壁面への設置は、別売のマグネット Kit M を使用し、以下の点に注意して行ってください。

・マグネットキットの使用方法は、マグネット Kit M の取扱説明書をご参照ください。
・本製品は必ず下図の〇の方向に設置してください。

図 4　マグネットキットを使用する場合の設置方向

設置面の状態によっては、マグネットの充分な強度を得られない場合があります。

・必ず〇の方向に設置してください。それ以外の方向に設置すると、正常な放熱ができなくなり、火災、故障の原因となります。

・マグネットの取り付けおよび機器の設置は、ケーブルなどの重みにより機器が落下しないように確実に行ってください。ケガや機器破損の原因となるおそれがあります。

6 接続

ネットワーク機器の接続

● UTP ケーブルの接続

UTP ケーブルを使用して本製品と PC などの端末を接続します。本体の LAN ポート（RJ-45）に UTP ケーブルの一端を接続し、もう一端をネットワークポートに接続します。

UTP ケーブルのコネクター部を持ち、カチッと音がするまで差し込んでください。

● UTP ケーブルのカテゴリー

10BASE-T 接続の場合はカテゴリー 3 以上、100BASE-TX の場合はカテゴリー 5 以上、1000BASE-T 接続の場合は、エンハンスド・カテゴリー 5 以上の UTP ケーブルを使用します。

● UTP ケーブルの長さ

本製品とネットワーク機器を接続する長さは 100m 以内にしてください。

電源の接続（本製品の起動）

本製品は、電源ケーブルを電源コンセントに接続することで電源が入ります。

本製品を AC100V で使用する場合は、同梱の電源ケーブルを使用してください。AC200V でご使用の場合は、設置業者にご相談ください。不適切な電源ケーブルや電源コンセントを使用すると、発熱による発火や感電のおそれがあります。

本製品には電源スイッチがありません。電源ケーブルを電源コンセントに接続した時点で、電源が入りますのでご注意ください。

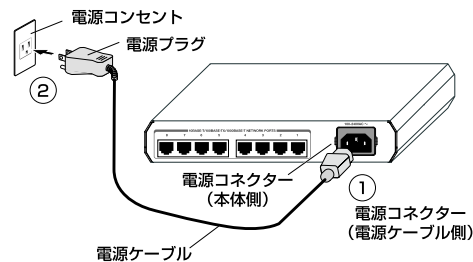



図 5　電源ケーブルの接続

1.　本体側の電源コネクターを接続します。

図 5 の①をご覧ください。

電源ケーブル抜け防止対策として、オプション（別売）の電源ケーブル抜け防止金具（AT-RTNR-01）をご使用いただけます。

2.　電源プラグを電源コンセントに接続します。

図 5 の②をご覧ください。
このとき、本体前面の「POWER LED」が緑で点灯することを確認してください。
UTP ケーブルが正しく接続され、接続先機器とのリンクが確立されると、接続したポートの「L/A LED」が緑または橙で点灯します。

本製品の停止

本製品を停止するには電源コンセント側の電源プラグを抜いてください。

電源を抜くときには、本体側の接続を先に抜かないでください。感電事故を引き起こすおそれがあります。

本製品を停止してから再度起動する場合は、しばらく間をあけてください。

7 構成

本製品はスタンドアローンでご使用いただけるほか、下図のとおりカスケード接続でもご使用いただけます。

カスケード接続

本製品はMDI/MDI-X自動切替をサポートしているので、ケーブルをクロスタイプに変更せずに、簡単にカスケード接続を行うことができます。

ヒント

・スイッチ同士のカスケード接続は、カスケードできる数に理論上の制限がありません。そのため、用途に合わせてネットワークを拡張することができます。

・カスケードの段数はネットワーク上で動作しているアプリケーションのタイムアウトによって制限される場合があります。

注意

ポートのスピードを 10Mbps、100Mbps で固定した場合、MDI/MDI-X 自動切替は無効となり、デフォルトで MDI-X が設定されます。

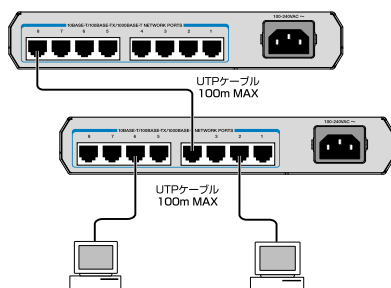



図 6　カスケード接続

8 設定

通信速度 / モードの設定

本製品と接続先機器のモードは、次の表の○印の組み合わせになるように設定してください。

接続先ポート		CentreCOM GS908XL				
		10M HALF	10M FULL	100M HALF	100M FULL	AUTO
10M	HALF	○	–	–	–	○
	FULL	–	○	–	–	–
100M	HALF	–	–	○	–	○
	FULL	–	–	–	○	–
AUTO		○	–	○	–	○

表 4　接続先の機器との組み合わせ（10Mbps、100Mbps）

接続先ポート		CentreCOM GS908XL			
		1000M MASTER	1000M SLAVE	1000M AUTO	AUTO
1000M	MASTER	–	○	○	○
	SLAVE	○	–	○	○
	AUTO	○	○	○	○
AUTO		○	○	○	○

表 5　接続先の機器との組み合わせ（1000Mbps）

注意

表 5 は GS900XL 同士を接続した場合です。GS900XL 以外の機種を 1000M でリンクさせる場合は、GS900XL を AUTO に設定することを推奨します。

● モードの設定手順

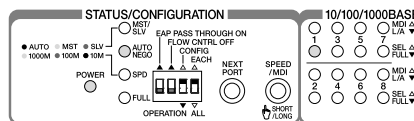
接続先の機器がオートネゴシエーションをサポートしていない場合、本製品のモードが「AUTO NEGO」（オートネゴシエーション）に設定されていると、「10M FULL」、「100M FULL」での接続ができなくなります。この場合、コンフィグレーションスイッチを使用して、本製品のモードを手動で設定します。

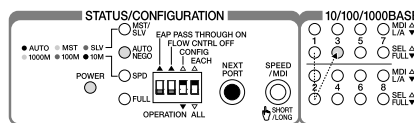
ここでは例として、ポート 3 を出荷時設定から「100M FULL MDI」に設定する方法を説明します。

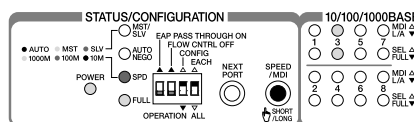
1. モード設定スイッチを「CONFIG」（上）側に設定します。

モード LED の「AUTO NEGO」（オートネゴシエーション）が点灯し、ポート LED の「SEL LED」が全ポート点滅している状態です。

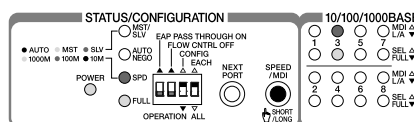
2. ターゲットポート切替スイッチを「EACH」（上）側に設定します。

ポート 1 が選択され、ポート LED の「SEL LED 1」が点滅している状態です。

3. ポート切替スイッチを使用して、ポート 3 まで移動します。

ポート切替スイッチを 2 回押して、ポート 3 まで移動します。ポート LED の「SEL LED 3」が点滅している状態です。

4. スピード、Force MDI 切替スイッチを使用して、モードを 100M FULL に設定します。

スピード、Force MDI 切替スイッチを 4 回押して、100M FULL に設定します。モード LED の「SPD」が橙で点灯し、「FULL」が緑で点灯している状態です。

5. スピード、Force MDI 切替スイッチを使用して、MDI に設定します。

Force MDI を設定するには、スピード、Force MDI 切替スイッチを 1 秒以上押すと「MDI LED」が切り替わります。スピード、Force MDI 切替スイッチを 1 回押し、MDI に設定します。「SEL LED 3」が緑で点滅し、「MDI LED」が橙で点灯している状態です。

注意

ポートのスピードを 10Mbps、100Mbps で固定した場合、MDI/MDI-X 自動切替は無効となり、デフォルトで MDI-X が設定されます。

6. モード設定スイッチを「OPERATION」（下）側に戻します。

ポートのモード設定が有効となり、再起動後も同じ設定で本製品を使用できます。

以上で「ポート 3」を「100M FULL MDI」に設定するための手順が終了しました。

9 トラブルシューティング

「通信できない」とか「故障かな？」と思われる前に、以下のことを確認してください。

● POWER LED は点灯していますか？

「POWER LED」が点灯していない場合は、電源ケーブルに断線がなく正しく接続されているか、正しい電源電圧のコンセントを使用しているかなどを確認してください。

● 機器を停止後、すぐに起動していませんか？

本製品を停止してから再度起動する場合は、しばらく間をあけてください。

● L/A LED（LINK/ACT LED）は点灯していますか？

「L/A LED」は接続先機器と正しく接続されている場合に点灯します。点灯しない場合、以下のことを確認してください。

○ 接続先機器に電源が入っていることを確認してください。接続先機器が障害がなく通信可能な状態にあることを確認してください。

○ 正しい UTP ケーブルが断線なく正しく接続されていることを確認してください。

○ ケーブルの長さが制限を超えていないことを確認してください。

2 つのネットワーク機器の直接リンクを構成する UTP ケーブルは最長 100m と規定されています（ただし、クラスⅡのリピーターをカスケード接続する場合のリピーター間は 5m 以内としてください）。

○ ケーブルを他のポートに差し替えて、正常に動作するか確認してください。

特定のポートが故障している可能性があります。

○ UTP ケーブルに問題がないか確認してください。

ケーブルの不良は外観からは判断しにくいため（結線は良いが特性が悪い場合など）、他のケーブルに交換して試してみてください。

○ 接続先機器の通信モードを確認してください。

本製品の 10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T ポートは、オートネゴシエーション機能をサポートしています。本製品がオートネゴシエーションモードに設定されている場合で、接続先機器が IEEE 802.3u 規格のオートネゴシエーション機能をサポートしていない場合は、接続先機器の通信モードを Half Duplex に設定してください。

10 製品仕様

準拠規格	
	IEEE 802.3　10BASE-T IEEE 802.3u 100BASE-TX IEEE 802.3ab 1000BASE-T IEEE 802.3x　Flow Control
適合規格	
安全規格	UL60950-1, CSA-C22.2 No.60950-1
EMI 規格	VCCI クラス B
電源部	
定格入力電圧	AC100-240V
入力電圧範囲	AC 90-264V
定格周波数	50/60Hz
定格入力電流	0.2A
最大入力電流（実測値）	0.15A
平均消費電力	6.9W（最大 10W）
平均発熱量	24kJ/h（最大 36kJ/h）
環境条件	
動作時温度	0 ～ 40℃
動作時湿度	80%以下（結露なきこと）
保管時温度	-20 ～ 60℃
保管時湿度	95%以下（結露なきこと）
外形寸法（突起部を含まず）	
	210 (W) x 121 (D) x 38 (H) mm
質量	
	800g
スイッチング方式	
	ストア&フォワード
MAC アドレス登録数	
	8K（最大）
MAC アドレス保持時間	
	300 ～ 600 秒
メモリー容量	
パケットバッファー容量	176KByte

11 保証と修理

本製品の保証内容は、製品に添付されている「製品保証書」の「製品保証規定」に記載されています。製品をご利用になる前にご確認ください。本製品の故障の際は、保証期間の内外にかかわらず、弊社修理受付窓口へご連絡ください。

アライドテレシス株式会社 修理受付窓口
0120-860332
携帯電話／ PHS からは： 045-476-6218
月～金（祝・祭日を除く） 9:00 ～ 12:00
13:00 ～ 17:00

● 保証の制限

本製品の使用または使用不能によって生じたいかなる損害（人の生命・身体に対する被害、事業の中断、事業情報の損失またはその他の金銭的損害を含み、またこれらに限定されない）につきましては、弊社はその責をいっさい負わないこととします。

12 ユーザーサポート

障害回避などのユーザーサポートは、次の「サポートに必要な情報」をご確認のうえ、弊社サポートセンターへご連絡ください。

アライドテレシス株式会社 サポートセンター
http://www.allied-telesis.co.jp/support/info/

0120-860772
携帯電話／ PHS からは： 045-476-6203
月～金（祝・祭日を除く） 9:00 ～ 12:00
13:00 ～ 18:00

13 サポートに必要な情報

お客様の環境で発生した様々な障害の原因を突き止め、迅速な障害の解消を行うために、弊社担当者が障害の発生した環境を理解できるよう、以下の点についてお知らせください。なお、都合により連絡が遅れることもございますが、あらかじめご了承ください。

● 一般事項

すでに「サポート ID 番号」を取得している場合、サポート ID 番号をお知らせください。サポート ID 番号をお知らせいただいた場合には、ご連絡先などの詳細は省略していただいてかまいません。

○ サポートの依頼日
○ お客様の会社名、ご担当者名
○ ご連絡先
○ ご購入先

● 製品について

製品名（GS908XL)、製品のシリアル番号（S/N)、製品リビジョンコード（Rev）などのハードウェア情報をお知らせください。

製品のシリアル番号、製品リビジョンコードは、製品に貼付されているシリアル番号シールに記入されています。

S/N 0047744990805087 Rev A1

図 7 シリアル番号シール（例）

● 設定や LED の点灯状態について

○ LED の点灯状態をお知らせください。
○ スイッチ類の設定状態をお知らせください。

● お問い合わせ内容について

○ どのような症状が発生するのか、またそれはどのような状況で発生するのかをできる限り具体的に（再現できるように）お知らせください。

● ネットワーク構成図について

○ ネットワークとの接続状況や、使用されているネットワーク機器がわかる簡単な図をお送りください。
○ 他社の製品をご使用の場合は、メーカー名、機種名、バージョンなどをお知らせください。

14 ご注意

本書に関する著作権などの知的財産権は、アライドテレシス株式会社（弊社）の親会社であるアライドテレシスホールディングス株式会社が所有しています。アライドテレシスホールディングス株式会社の同意を得ることなく本書の全体または一部をコピーまたは転載しないでください。弊社は、予告なく本書の一部または全体を修正、変更することがあります。弊社は、改良のため製品の仕様を予告なく変更することがあります。

15 商標について

CentreCOM は、アライドテレシスホールディングス株式会社の登録商標です。

16 電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。 取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

17 廃棄方法について

本製品を廃棄する場合は、法令・条例などに従って処理してください。詳しくは、各地方自治体へお問い合わせいただきますようお願いいたします。

18 日本国外での使用について

弊社製品を日本国外へ持ち出されるお客様は、下記窓口へご相談ください。

0120-860442
月～金（祝・祭日を除く）9:00 ～ 17:30

19 マニュアルバージョン

2008 年 1 月 Rev.A 初版